



# 北方民族博物館だより

No.64



H5.27 クイル細工装飾木製箱  
アルゴンキンインディアン/ミクマック  
カナダ 1860年頃

木製の箱にクイル（ヤマアラシのとげ）をはめ込んで装飾したものの。濃い茶色の部分は、トウヒ属の根を割いたもので、白や染色した部分（白地に斜めに入っているもの）がクイルである。細工用としてはヤマアラシの首周辺の長いものが好まれていた。クイル細工は、北アメリカのインディアン諸族で、ビーズが入手できるようになる以前に、白樺樹皮製品や、皮革製品などを装飾するために広く使われていた。

- 1 表紙「クイル細工装飾木製箱」
- 2 企画展「北の台所事情」
- 4 講演会「北海道の器：古代の器を中心に」
- 5 学芸員実務実習
- 6 INFORMATION

平成18年度企画展

## 『北の台所事情 —食にまつわる道具類—』

2007. 2. 3 - 3. 25

平成18年度 企画展

北の台所事情

2007. 2.3(土)  
3.25(日)

食にまつわる道具類  
観覧 無料

オホーツク人、擦文人、アイヌの炉とカマドから

休館日 月曜日(2・12は開館)、2・13(火)  
開館時間 9:30-16:30  
観覧料 無料(施設費は有料)  
主催 北海道立北方民族博物館  
協力 国(北海道庁文化財センター)、北海道教育委員会、  
東京大学大学院人文社会科学部資料館(北海道)、(財)研究資料保存協会、  
オホーツクミュージアム(北海道)、(財)道庁文化財センター

**北海道立北方民族博物館**  
Hokkaido Museum of Northern Peoples  
〒093-0042 北海道網走市字瀬見309-1(天都山・道立オホーツク公園内)  
TEL 0152-45-3888 FAX 0152-45-3889 <http://hoppohm.org>

「衣食住」というように、「食」が生活に欠かせないことは今も昔も変わりありません。

その食を扱う場所は「台所」です。台所といえば、調理する場所であり、今ならコンロや流し台、冷蔵庫、鍋、包丁などの道具類が思い浮かびますが、先史時代にはどのような道具が使われたのでしょうか。

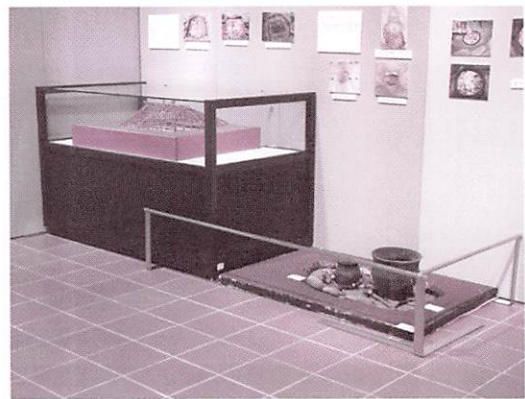
北海道の歴史を彩ったオホーツク人や擦文人、アイヌの台所といえば、「炉」か「カマド」が中心となります。オホーツク人は炉、擦文人はカマドと炉、中・近世のアイヌは炉を台所や台所兼食卓としており、台所のあり方はさまざまだったようです。

近年、住居址発掘の際の遺物の出土状況から、屋内空間の使用のあり方を想定できるようになっています。また発掘方法や遺物保存技術の発達によって、数mm程度の植物種子や腐敗しやすい木製品や鉄製品など、それまで見落とされがちだった資料の収集が可能となりました。そして古くから栽培植物が利用されていたことや、土器以外のさまざまな木製道具類が使用

されていたことも明らかとなってきています。

本展では、炉やカマドを中心に、オホーツク人や擦文人、アイヌの台所に関わる事柄について、近年の発掘調査成果をもとに紹介しました。

※各文化期の年代は研究者間では必ずしも統一されていません。本展示では、オホーツク文化期を7世紀から13世紀、擦文文化期を7世紀から12世紀、アイヌ文化期を13世紀以降とし、10世紀頃のオホーツク人、11世紀頃の擦文人、13世紀から17世紀頃のアイヌを中心に紹介しました。



### 【主な食材と台所にいたるまで】

オホーツク文化、擦文文化、そしてアイヌ文化期の人びとはシカやクマなどの陸獣、アザラシ類やトドなどの海獣、サケ類やカキなどの魚介、オニグルミやヤマブドウなどの野生植物や、アワやキビなどの栽培植物を食料としていました。道内各地の遺跡から、石鏟や骨製の銚先、木製の魚叩き棒や杵、鉄製の鋤先など、狩猟、漁撈、採集や栽培に関わる道具類が見つかっています。



### 【オホーツク人の台所】

オホーツク人は、五、六角形をした堅穴住居の中央部分に炉を設けていました。炉には砂利をまいただけの地床炉や石で囲んだ石組み炉、木枠で囲んだ木枠炉



の3種類があり、調理のほか暖房や照明の役割も兼ね備えていたようです。

近年の精密な発掘調査によって、オホーツク人による屋内利用のあり方の一端が明らかにされています。北見市常呂町の常呂川河口遺跡第15号住居址の調査では、壁際から多くの遺物が出土し、炉の周辺からはほとんど遺物が見つからないという結果が出ています。さらに、壁際の遺物は、いくつかのまとまりをもって出土しており、数家族が一つ屋根の下に寝起きし、各々が土器やその他の生活用品を所有していた様子がわかってきました。

土器には、その内外面に焦げ跡が付き、煮炊きをしたことがわかる場合がありますが、オホーツク人は、所有する煮炊き用の土器を炉に持ち寄って調理し、食事の後は、各家族が占有するスペースにそれらの道具を片付けたのではないのでしょうか。

#### 【擦文人の台所】

擦文人は、四角形をした竪穴住居の壁際にカマドを設けていました。粘土で作られたカマドの上部には土器を固定して煮炊きをするための穴があけられています。また煮炊きの際に出る煙を排出するための煙道が屋外に続いています。

カマドは通常屋内に1つですが、2つのカマドをもつ住居もありました。また、特にオホーツク海沿岸地域の住居にはカマドに加えて屋内中央に炉をもつ場合もありました。

擦文人の住居では、カマド周辺から煮炊き用と考えられる鉢形の土器や、盛り付け用とされる杯形の土器が多く出土する傾向にあります。このことから、カマド周辺が擦文人の炊事場であり、調理具類の収納場所だったと考えられます。



#### 【アイヌの台所】

アイヌ文化は擦文文化を母体とし、オホーツク文化や本州の影響などを受けて成立したと考えられています。アイヌ文化では、住居が竪穴式から平地式に替わり、土器が使われなくなり、鉄鍋が常用されるようになりました。

平地式の住居は、発掘調査ではなかなか見つけにくいので、中世のアイヌの様子はわからないことが多くありました。しかし、近年千歳市で擦文文化期からアイヌ文化期にいたる遺跡から大量の木製品が発見され、いくつかのアイヌの道具類は同様のものがすでに擦文人によって使用されていたことが明らかとなりました。台所に関する道具類では、篋やまな板などの調理具、漆塗りの椀や箸などの食器類が擦文人からアイヌへ受け継がれました。

しかし、その一方、アイヌは擦文人のようにカマドでの煮炊きを行わなかったようです。近世の文書などを参考にすると、アイヌは屋内中央に木枠のある長方形の炉（囲炉裏）を設け、炉端で煮炊きや食事をし、食の道具類は入口脇にまとめて収納したようです。

カマドは炉よりも高温で煮炊きをすることができず、熱伝導率の良い鉄鍋がアイヌに普及したことで、火力は小さいけれども、暖房や照明など、調理以外の機能を備え、排煙に気を配る心配のない炉が使われるようになったと考えています。

日本列島にカマドが普及したのは古墳時代の5世紀頃で、主に関西以西で広く使用されたといわれています。北海道では、擦文人のみがカマドを用いました。アイヌは、竪穴式から平地式住居へ、また熱伝導率の良い鉄鍋の使用に伴い、カマドを廃し、炉を再び煮炊きの場としたようです。

寒冷地での生活には、炊事に特化したカマドよりも、暖房や照明などの用途も備えた炉の方が適していたのではないのでしょうか。

#### 【謝辞】

本企画展を開催するにあたり、下記の機関より資料・写真の貸出、情報の提供など、多大なご協力をいただきました。記して感謝申し上げます。

北海道立埋蔵文化財センター、北見市教育委員会、東京大学人文社会系研究科附属北海文化研究常呂実習施設、オホーツクミュージアムえさし、苫前町郷土史研究会

(学芸グループ 角 達之助)

## 平成18年度企画展関連講演会

# 『北海道の器 古代の器を中心に』

2007. 2. 4

講師 田中 哲郎氏  
(北海道教育庁 文化・スポーツ課  
文化財調査グループ主査)

企画展に関連して講演会と展示解説会を2月4日に行いました。講演会の講師には、今まで北海道内各地において、縄文文化期からアイヌ文化期までのさまざまな時期の遺跡を数多く発掘調査されてきた田中哲郎氏をお迎えし、各地出土の器について、その製作工程や器形、用途の違いなどについて、わかりやすく解説いただきました。以下にその概要を紹介します。



土や粘土を主な素材として作られる器は、焼く時の温度や材料の違いにより、土器、陶器、炆器、磁器に分けられます。

土器は700℃から800℃くらいの低い温度で焼きしめたものです。吸水性に富み、比較的割れやすいのが特徴です。縄文土器をはじめ、続縄文土器やオホーツク土器、擦文土器などがこれにあたります。土器よりもやや高い温度で焼き、長石と珪石に石灰と水を加えた釉薬をかけたものを陶器といいます。土器と同様吸水性に富み、割れやすいのが特徴です。道内には15世紀から16世紀頃に備前系・越前系・美濃系・唐津系の陶器が移入されるようになりました。炆器は1000度以上の高温で焼いた硬い器で、釉薬はかけません。須恵器がこれにあたります。道内には擦文文化期に移入されてきました。最後に磁器とは、高温で焼いた吸水性のない、釉薬をかけた器を指します。

北海道の縄文文化期からアイヌ文化期にかけて最も多く出土する器が土器です。一時期、陶器や炆器等もみられますが、それらは移入品ですので、道内産の器は土器が中心となります。

土器の形は、①口の部分(口縁部)と胴部の幅が同じくらいで、その中間部(頸部)のくびれが小さいもの【甕形】②頸部のくびれが大きく、胴部が丸みをもつもの【壺形】③最大幅を口縁部にもち、口縁部から底部にかけて直線的で筒形に近いもの【鉢形】④鉢形の小型で胴部に丸みをもつもの【椀形】⑤鉢形・椀形と同じ形で器の高さ(器高)が低いもの【坏形】⑥坏形に台がついているもの【高坏形】の6つの形に大別することができます。

土器の用途は、土器の形や大きさに応じて調理用(煮炊きする器)、貯蔵用(食物・水を蓄える器)、食卓用(食物を盛る器)に分けられます。甕型や鉢形の土器は、頸部のくびれが小さく、道具を用いて土器の内容物を頻繁にかき回すことができるので調理用として、壺型は内側表面を丁寧に磨いて緻密化し、内容物の漏れを防ぐ工夫がなされているので液体や貴重品の貯蔵用として、椀・坏・高坏形は容積が小さいことから、調理用や貯蔵用とは考えにくく、食卓用と考えられています。

北海道の先史文化を通じて数多く出土しているのは甕型や鉢形などの調理用、貯蔵用の土器であり、食卓用と考えられる土器が目立って出土するようになるのは、擦文文化期からです。またこの頃には、東北地方から伝えられたカマドが、調理のために使われていたことが明らかとなっています。カマドでの煮炊きは高温を保つことができるため、穀類の煮炊きに適していると考えられています。食卓用の器類は、穀類などの盛り付け用としてカマドとともに擦文人に伝えられたのでしょう。

(学芸グループ 角 達之助)



企画展にあわせて解説会も行いました。



## 『学芸員実務実習』

2007. 1. 30 - 2. 4

本年度は当館に3名の実習生を迎えました。実習生の感想を紹介します。



実習に行く六日間という期間はとても大変だと思っていました。けれど、一日、二日と日数を重ねてゆくと、あっという間に終わってしまいました。企画展の開催時期と重なっていたので、準備の補助や他に、収蔵庫での作業、受付業務、広報の仕事など様々な経験ができて、充実した日を送ることができました。今まで受けていた大学の授業ではわからないことや、知識としてしか知らなかったことを、自分の手で作業して学ぶことができてよかったです。

(東北学院大学 竹内由祈絵)

企画展の準備や収蔵庫での整理、広報活動など、実際にやってみないと分からない博物館の裏側の仕事を一部であるが体験することができ、非常に勉強になった六日間だった。些細な疑問でも丁寧に答えてくださる学芸員や主事の方々のおかげで、日々、消化不良を起こすことなく、自らの知識の一つとして、積み重ねてゆくことができた。

今後は、今回の実習で得たことを様々な場面で生かしてゆきたい。そして、探求心を持ち続けたい。

(北海道教育大学旭川校 山口 緑)

社会人学生としては、皆さんの生き生きとした働きぶりを特記せずにはいられない。寒冷地で生きる先住民族の英知に敬意をもち、学ぶべきものをあの手この手で差し出してくれる憧れの博物館は、潜入してみると働く人びとのハートで出来ていた。

「多様な価値観の尊重」が前提の職場で毎日を通すと、自分も尊重することが出来るのだろうか。物に語るせるのが博物館。ここでは物の向こうに自信と熱意がはみ出ていたんだ！と知った。

(聖徳大学通信教育部 渡来典子)



北海道開拓記念館移動展・北方民族博物館企画展

### 『カナディアン・ロッキーと大平原のくに ～アルバータにいきづく多文化～』

平成19年4月28日[土]～6月26日[火]

北海道と姉妹州提携をしているカナダ・アルバータ州の自然、歴史、産業、文化について紹介します。

解説会 4月28日[土]①午前11時～ ②午後2時～

講師：北海道開拓記念館学芸員、当館学芸員

試食会「ビート糖ってどんな味？」 5月5日[土]

講習会「クイル細工のアクセサリーをつくろう」

5月5日[土]①午前10時～ ②午後1時30分～ 各回定員15名

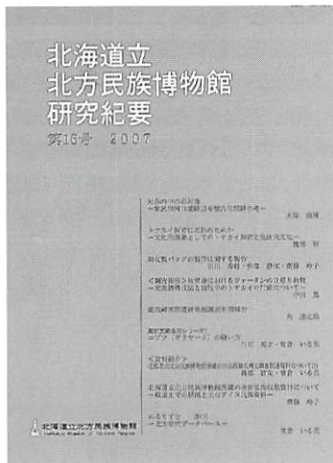
講師：池田貴夫（北海道開拓記念館学芸員） 当館学芸員

講座「アルバータ州の地質と恐竜」「クイズにチャレンジ&展示解説」

6月2日[土]午後2時～ 川上源太郎氏（道立地質研究所）

北海道開拓記念館学芸員

研究紀要第16号を発行しました  
B5判 114頁



対称の中の非対称

ー常呂川河口遺跡15号竪穴住居跡小考ー 犬塚 康博

トナカイ飼育はだれのためか

ー文化的表象としてのトナカイ飼育と先住民文化ー 渡部 裕  
腸皮製バッグの製作に関する報告 市川 秀雄・弥富 静江・齋藤 玲子  
＜調査報告＞秋営地におけるツァータンの日帰り放牧

ー家畜誘導技法と放牧中のトナカイの行動についてー 中田 篤  
能取岬西岸遺跡発掘調査中間報告 角 達之助  
服部文庫公開シリーズ4

ニブフ（ギリヤーク）の縫い方 白石 英才・笹倉いる美

＜資料紹介＞

北海道立北方民族博物館所蔵の田辺尚雄氏樺太調査関連資料について(1)

篠原 智花・笹倉いる美

＜資料紹介＞

北海道立北方民族博物館所蔵の寺田弘氏収集資料について

ー収集までの経緯と主なアイヌ民族資料ー 齋藤 玲子  
のりりと 2006 ー北方研究データベースー 笹倉いる美

## INFORMATION

### モニター会議

2月7日に平成18年度第2回モニター会議を開催しました。モニター5名と当館職員が出席し、北方民族博物館の活性化等についてが議題となりました。



### 行事予定

- ◆博物館クラブ  
北方民族のおもちゃ  
4月21日[土]午前10時～  
講師：当館解説員
- ◆学芸員講座  
北のトナカイ遊牧民について  
6月16日[土]午後1時30分～  
講師：中田篤（当館学芸員）

### 行事報告

- ◆ロビーコンサート2006  
青少年のための室内楽の夕べ  
12月19日[火]  
演奏：札幌交響楽団員
- ◆博物館クラブ  
フェルトで作る小物入れ  
1月6日[土]
- ◆博物館クラブ  
レッツ・すのーしゅーイング  
2月17日[土]  
道立オホーツク公園にて



道立オホーツク公園にて

### ワークシート

ワークシート（小学生用、中学生用、一般用）を改訂しました。常設展示室入口で配布していますので、ご自由にご利用ください。

### カレンダー



今年も小清水町立水上小学校から手作り版画のカレンダーが送られてきました。テーマは「水上の生き物」。受付に飾っています。

### 北方民族博物館だより No.64

平成19(2007)年3月23日発行  
編集・発行 北海道立北方民族博物館  
〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1  
電話 0152-45-3888 FAX 0152-45-3889  
e-mail: tonakai@hoppohm.org  
http://hoppohm.org  
指定管理者  
財団法人北方文化振興協会